

家庭・地域・学校で育てる神山っ子

越前市神山小学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	0回
地域及び家庭への学校公開	5回(のべ) 5日

(2) 地域人材の活用(のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	90人
授業ボランティア(含:低ボラ)	210人
登下校支援ボランティア	2200人
その他()	人

(3) 特色ある活動

テーマ 「 ふるさと教育 」

具体的活動内容

今年で12年目を迎える「米作り」は、高学年が中心になって種まき、田植え、稲刈り、収穫、もちつきと地域のゲストティーチャーに年間を通して指導していただきながら活動している。この体験活動と共にゲストティーチャーによる、稲のすばらしさ、その恩恵を受けて生きることのできる人間の「いのち」についてのお話を聞き、命の大切さも学習している。

今年、地域の農業グループが約30年ぶりに製作した昔ながらの「稲架(はさ)」に稲を掛け、天日で干し、美味しいもち米を収穫した。

そのもち米で、2月の両親学級「いきいきタイム」の時に、5年生と幼稚園児、そして保護者も交えてもちつき大会をした。保護者や地区のお年寄りに協力を呼びかけ、もちのつき方を教えてもらい、ついたもちを園児・児童・保護者・地域の方といっしょに味わった。また、あまったもち米は紅白の餅に加工して、3月の卒業式に全校及び来賓、お世話になった地域の方に配った。



成果と課題

この「米作り」において、学校と地域が一体となって、たくましい神山っ子を育てることができた。そして、児童はいきいきと一連の食の生産に取り組み、豊かな人間性や社会性、人を思いやる心が育っていった。課題としては、農業従事者の高齢化が進むに従って、この活動のゲストティーチャーも年々高齢化していることである。